



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人
日本クリニカルパス学会

No.
43

発行日
2020年3月24日

in 熊本

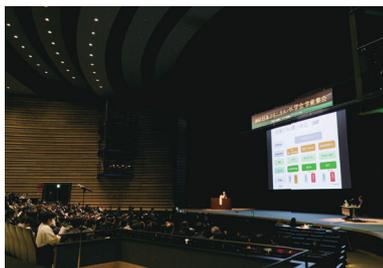
第20回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2020.1.17~18

第20回学術集会 会長、済生会熊本病院
町田二郎

2020年1月17~18日に熊本市熊本城ホールにおいて第20回日本クリニカルパス学会学術集会を開催し、無事終了することができました。約2,500名の多くの皆様にご参加

いただき、どの会場でも活気あふれる議論が展開されました。紙面をお借りし、理事、監事、評議員の皆様、



プログラム委員の皆様、座長の皆様、スポンサー企業の皆様、ご発表いただいた皆様、そしてご参加いただいたすべての皆様に、主催者を代表して厚くお礼申し上げます。

本学術集会では電子クリニカルパスの本質的な意義を理解できること、Basic Outcome Master (BOM) の意義に対する理解を深めるこ

と、パス作成やバリエーション分析の実際が理解できること、を念頭に、招請講演、特別講演を組み、教育セッションを増やし、学術集会としては初めてのグループワークを取り入れるなどを実行委員会で検討してまいりました。本番までは紆余曲折が多々ありましたが、結局はご登壇いただいた皆様の意欲と情熱により、主催者が想定した以上の結果を頂くことができたと感じており、世の中というものはこうして動いていくものなのだと痛感しました。

臨床系の学会でも学術集会のあり方は変化しております。資格取得のための教育セッションはどの学会でも盛況であり、学術集会は生涯教育の場としての意義が大きくなっているようです。本学術集会でもセッション別参加者数をみますとその傾向が窺えます。資格はともかくとして、医療者にとってクリニカルパスで何を学び、何を活かすのかを改めて直視する必要があるのではないのでしょうか。もう一点、今回開催にあたって企業スポンサー確保には結構苦労がありました。今後の学術集会継続のうえで重要な課題であり、予算の確保については学会としても考慮する時



町田二郎 先生

▶ 第20回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告
 第20回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して
 第3回クリニカルパス教育セミナー指導者養成コースに参加して
 リレーエッセイ 第37回

期にきているように感じております。

電子クリニカルパスは育て方次第で核心的な医療情報基盤になります。成人式で身勝手な振る舞いをする若者のようではなく、自らの素質と期待を自覚し、規律と自律を重んじ、大きく成長してくれることを願っております。そのためには多くの皆様のご理解とご協力による環境作りは欠かせません。本学術集会が少しばかりそのお役に立ったとすれば望外の喜びであります。心から感謝の意を表したいと思います。



in 熊本

第20回日本クリニカルパス学会
 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2020.1.17~18

国立国際医療研究センター 国際医療協力局
 森山 潤

このたび、「ベトナム国立チョーライ病院におけるクリニカルパス導入の試み」が、第20回日本クリニカルパス学会学術集会において、大変名誉ある最優秀賞をいただきました。この場をお借りして、皆さまに感謝申し上げます。

ベトナム国立チョーライ病院は、ベトナム南部のホーチミンに位置し、北部のバクマイ病院、中部のフエ中央病院とならぶ、ベトナムを代表する三大病院の一つです。1975年に日本の無償資金協力で建物が全面改築



され、日本とベトナムの交流の象徴となる病院です。今でも日本の大学や病院、学会等との交流が続いています。一方で、医療施設や医師・看護師の能力等には地域格差があり、多くの人々は質の高い医療を求めて都市部の中央病院を訪れます。その結果、チョーライ病院では、入院病床数約1,900床に対して実際の入院患者が2,700人(病床稼働率140%)という過負荷が生じ、毎日が野戦病院のような状況です。こうした背景から、国際協力機構(JICA)は第二病院にあたるチョーライ日越友好病院の建設と病院運営および管理能力を支援するプロジェクトを開始しました。その活動の1つに、医療の質・安全の向上を目的としたクリニカルパスの導入が含まれており、私はこのプロジェクトに約3年間携わりました。

プロジェクトでは、クリニカルパス作成の中心メンバーを日本に招聘し、先進的な取り組みをされている済生会熊本病院様にご協力をいただき、クリニカルパスの概念や作成方法を学びました。その後も、済生会熊本病院様から専門家を短期派遣していただき、病院幹部・スタッフへの理解促進を目的としたセミナーを開催しました。2018年には副院長および臨床科の医長等を中心とするクリニカルパスチームが設置され、現在院内でのパス作成が進められています。

現在は、11種類の疾患に関してクリニカルパスを作成したところであり、実際に臨床で使用されるまでには院内でのトライアルを実施した後、保健省(厚生労働省に該当)の承認を得なければならないなど多くの課題があります。

日本の熊本の地でクリニカルパスを学び、ベトナムの医療をより良く改善しようと頑張っている仲間がベトナムにもいるということを感じたいと思い、このたび発表させていただきました。共著のメンバーにも共有したところ、大変喜んでおりました。賞金はチョーライ病院の成果として直接お渡しする予定です。今後とも日本クリニカルパス学会の皆さまからのご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

**【日本クリニカルパス学会 第20回学術集会賞 受賞者】
最優秀賞：**

1-D-32 「ベトナム国立チョーライ病院におけるクリニカルパス導入の試み」
国立国際医療研究センター 森山 潤

優秀賞：

1-D-31 「高齢者に対する胃切除の術後肺炎予防の取り組み」
静岡県立静岡がんセンター 中村 健一

1-D-34 「患者状態に合わせて追加治療に対応可能なERCPパスの改定後評価」
三井記念病院 佐藤 賢太

1-D-37 「経大動脈アプローチ大動脈弁植え込み術クリニカルパス作成の試み」
小倉記念病院 渡邊 真依

ノミネート賞：

1-D-28 「地域連携パス(大腿骨/脳卒中)12年間の使用状況と脱落要因の検討」
岩手県立胆沢病院 鈴木 俊郎

1-D-29 「匿名化医療データによるクリニカルパスの作成・改良法の開発」
宮崎大学医学部附属病院 山崎 友義

1-D-30 「機械学習を用いたクリニカルパスの自動作成」
株式会社ソフトウェア・サービス 五十嵐吉輝

1-D-33 「救急科経過観察パスから3つの疾患別経過観察パス作成の経過」
山形県立中央病院 長塚真紀子

1-D-35 「薬剤師の病棟業務標準化に向けた取り組み」
相模原病院 高橋 郷

1-D-36 「当院クリニカルパスにおけるリハビリアウトカム導入の試み」
済生会熊本病院 日高 淳

【2019年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

研究報告：第20巻第2号掲載

「計量テキスト分析を用いた加賀脳卒中地域連携クリニカルパスと従来型診療情報提供書との情報量比較」
やわたメディカルセンター 池永 康規

実践報告：第20巻第2号掲載

「大腿骨頸部骨折地域連携パスからみた退院後要介護度変化-地域での取り組みに向けて-」
平内中央病院 米田 良平

【2019年度日本クリニカルパス学会優秀英語論文賞】

Original Research Article

Feasibility Of A Clinical Pathway With Early Oral Intake And Discharge For Laparoscopic Gastrectomy
(Scandinavian Journal of Surgery 107(3): 218-223, 2018)
東京医科歯科大学 中川 正敏

in 大阪

**第3回クリニカルパス教育セミナー
指導者養成コースに参加して**

2019.11.30~12.1

前橋赤十字病院
丸岡博信

基調講演のなかでトヨタ記念病院の岡本泰岳先生は、「パスを医療現場における質向上のツールとして正しく上手に使いこなすためには、パスを普及・教育できる指導者の存在が必要不可欠」と述べられていました。そのうえで、施設に限らず全国的に指導者が充足していない現状を懸念されていました。

このような状況とは裏腹に、セミナー参加者29人のパス教育における高いモチベーションと、講師陣の指導者育成にける熱意が相まって、会場は常に熱気と活気に溢れていました。

セミナーは「グループワークを通して指導者としての資質を身に付ける」をコンセプトに開催されました。ミニレクチャーでパスの基礎を振り返りながら、1日目は全職員を対象にした2つの研修プログラム(パス初心者用とパス委員用)を作成し、2日目は実際に作成したプログラムを別のグループに受講してもらって模擬研修を行いました。

限られた時間のなかでゼロから作成したグループは時間に追われて大変だったと伺いました。幸い、我々のグループは持ち寄った資料をもとにプログラムを作成したことで、多くの時間を話し合いに費やすことができ、ブラッシュアップできました。事実、当院の資料「MRC婚活パス」をもとに作成したバリエーション分析用のプログラムは、我々が意図した結果と受講者の解答がほぼ一致しており、一定の水準に達した内容に仕上がったと思います。



今回のセミナーは、教育ツールを持たない施設では新たな資料やノウハウの取得、提供した施設ではツールの改定や検証といった互いに実りあるセミナーとなりました。3年目を迎える今回の指導者養成コースは成果を求められる節目の開催と伺いました。総評のなかで岡本泰岳先生より「全てのグループで講師陣の助言をほとんど必要としなくなったことから参加者のレベル向上が感じられた」のお言葉をいただいたのは、セミナーの企画・運営に携わる皆さまのご高配の賜物と思います。

一方、残念だったことは参加職種に制限がないにもかかわらず、薬剤師の参加が私ひとりだったことです。厚生労働省より「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出されてから10年目を迎えます。薬剤師がチーム医療の実践ツールとしてパスを使いこなせない理由の一つに、パスを正しく教育できる薬剤師の指導者が不足していることが考えられます。

今回のセミナーを通して、パスが医療現場に必要なことを再認識し、私自身のパス活動ならびにチーム医療にかける熱意が増しました。今後は院内や地域におけるパスの普及に尽力したいと思います。

最後に、職種を問わずより多くの人に参加できるように、地域の研究会と学会が協力し合い、研究会主催で同様のセミナーが各地域で開催されることを願います。



リレーエッセイ 第37回

初めて体験するパスと子育て

岐阜市民病院 山本直生

JA愛知厚生連 海南病院 白井幸樹さんからの熱いご要望により、誠に僥越ながらリレーエッセイのバトンを受け取らせていただきました、岐阜市民病院で診療情報管理士としております、山本と申します。

私がクリニカルパスに関わるようになったのは、岐阜市民病院に入職したそ

の翌年の平成26年度、当院のクリニカルパス推進委員会に委員として参加するようになってからのことです。それからまだ5年程しか経過していないということになりますが、この5年間、毎年学会に参加させていただくこととなり、昨年度にはどういうわけかパス認定士を取得するに至りました。パス認定士を取得すると、当院ではまだ他に取得者がいないということもあって、ありがたいことに何かとパスに関する業務に携わる機会が増えていきました。

ただ、これは私がふだんから言い訳のようによく言っていることであり、同時に悩ましいところでもあるのですが、事務職という、実際にパスを使用することのない立場であるため、その実情がよくわかっていないという現状があります。診療情報管理士という立場上、DPCデータを集計したりパスの使用状況を分析したりということはふだんから行っていますが、何を糸口にして、何をゴールに設定して分析を行うべきか、そのヒントを現場の医療者から得ることが本当に多いです。事務職としては、いかにして現場の方々を支えられるかというところもひとつの命題であると考えますが、やはり実際にパスを使用されている医療者との情報交換、情報共有が重要であると常々感じさせられているところです。

このように、なかなかパスに直接触れることの少ない私ですが、つい先日、初めて当事者としてパスに触れる場面



山本直生 さん

がありました。といっても患者は私ではなく妻なのですが、患者側の目線で見たパスはまたこれまでとは違った印象を受けるものでした。

昨年春頃に妻の妊娠が判明したのですが、27週辺りからは逆子がどうしても直らず、予定帝王切開ということで、11月末から入院することとなりました。その間お世話になったのが件の帝王切開術パス(患者用)です。妻の付き添いをしながらも、食事はいつから食べられるのか、いつから自分でトイレに行けるようになるのか、点滴はいつまで、シャワーはいつから、などといろんな疑問が次々と湧いてきました。そのたびにパスを確認し、なるほどこういうときに患者さんが安心して治療を受けられるためにもパスがあるのだなあと、あらためて納得した次第です。そういう訳で、無事に第1子(男の子)が生まれ、現在は子育ての真っ

最中ですが、日々、ミルクはどれだけ飲ませればいいのか、何をしても泣き止まないときどうしたらいいのか、うちの子はあんまり寝られていない気がするけど大丈夫なのか、など、疑問が次々と降ってきている現状で、誰か子育てに使えるパスをしかも個別対応でつくってくれないかなと、切実に思う日々です。

そして今回のリレーエッセイですが、先日参加させていただいたクリニカルパス教育セミナー指導者養成コースにおいて見事その役を引き当てられた、松波総合病院の今尾裕子さんにバトンをお渡ししたいと思います。偶然にも同じ岐阜の、しかも今年岐阜市で学術集會が行われるこのタイミングで今尾さんにバトンを受け取っていただけたことを大変嬉しく思います。ありがとうございます。

事務局より

第21回 日本クリニカルパス学会学術集會

会 期：2020年11月6日(金)～7日(土)
会 場：長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
(岐阜県岐阜市長良福光2695-2)

会 長：松波 和寿
(社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長)

テ ー マ：Diversity 2020 -新世代のクリニカルパス-
プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、招請講演、シンポジウム、パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セミナー、一般演題(ポスター発表口演)、クリニカルパス展示など

参加登録募集期間：
2020年4月中旬～10月(予定)

演題募集期間：
2020年4月中旬～6月(予定)

第21回学術集會公式ホームページ：
<https://www.cp21mgh.com/>

第21回
日本クリニカルパス学会
学術集會

Diversity 2020
—新世代のクリニカルパス—

会 期 2020年11月6日(金)・7日(土)
会 場 長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川
会 長 松波 和寿 (社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長)

ARアプリCOCOAR2を
スマホでダウンロードしてください。
アプリを起動し、私にかざすと
AR動画を視聴することができます。

運営事務局
社会医療法人蘇西厚生会
松波総合病院
〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町代185-1

TEL 058-388-0111
FAX 058-388-4711 E-mail cp21@mghg.jp
H P https://www.cp21mgh.com

2020年度

資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

<http://www.jscp.gr.jp/nintei.html>

学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】 主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする

【応募期間】 2020年4月1日(水)～5月29日(金)

優秀英語論文賞(JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】 日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】 2020年4月1日(水)～5月29日(金)

クリニカルパス教育セミナー 基礎編

『楽しく学ぶクリニカルパスの基礎 ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2020』

昨年に引き続き夏に基礎編、学術集会で応用編を開催いたします。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあってご参加ください。

【東京会場】 2020年7月11日(土) 13:00～17:00 日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル)

【大阪会場】 2020年8月22日(土) 13:00～17:00 ドーンセンター(大阪府大阪市中央区大手前1-3-49)

日本クリニカルパス学会 会員募集中!

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記URLより学会ホームページをご覧ください。

〈会員の特典〉

- ・ 本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・ 学術集会で演題発表ができる。
- ・ 学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・ 認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・ 本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40,000円

年会費：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円

法人会員 40,000円

※2020年度より値上げいたします。

<http://www.jscp.gr.jp/contact.html>



発行

一般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-10 外苑マンション605

TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ：<http://www.jscp.gr.jp/>